### 修士論文

Title of your thesis

#### The Author

Department of Physics, A University

November 14, 2019

### 概要

This is the abstract of the thesis.

目次 iii

### 目次

1	LHC ATLAS 実験	1
	1.1 2番目	2
	1.2 Third page	3
2	Physics motivation	5
3	Description of the Detector	7
4	Object definition	9
5	Signal Optimisation	11
6	Background Estimation	13
7	Systematics	15
8	Results	17
9	Conclusion	19

### 第1章

### LHC ATLAS実験

Large Hadron Collider (LHC) はスイス、ジュネーブにある欧州原子核研究機構 (CERN) の地下 100m, 周長 26.7km のリングで構成される円形加速器である。最大で 14TeV の重心系エネルギーで 陽子陽子衝突させることが可能な、世界最大の陽子陽子衝突型加速器である。新粒子の探索や、ヒッグス粒子やトップクォーク等の質量が大きい粒子を多く生成できるので、結合定数などの精密測定 も行うことが可能である。

LHC は 2010 年から運転を開始し、7TeV から 8TeV の重心系エネルギーで 2012 年まで稼働した.この期間を LHC Run-1 と呼び、瞬間最高ルミノシティは  $0.77\times10^{34}{\rm cm}^{-2}{\rm s}^{-1}$  であった.その後,2013 年から 2015 年までのシャットダウン期間で加速器のアップグレードを行い,2015 年からは重心系エネルギー

### 1.1 2番目

This is the second page of the introductory chapter.

1.2. THIRD PAGE 3

#### 1.2 Third page

This is the third page of the introductory chapter.

### 第2章

# **Physics motivation**

### 第3章

## **Description of the Detector**

### 第4章

# **Object definition**

### 第5章

# **Signal Optimisation**

### 第6章

# **Background Estimation**

## 第7章

## **Systematics**

### 第8章

### Results

### 第9章

### **Conclusion**

## Acknowledgement

Thanks, many thanks for all my friends. ありがとう。本当にありがとう。

参考文献 23

### 参考文献

図目次 25

## 図目次

表目次 27

## 表目次